

★学校教育目標	○たくましい子	○たすけあう子	○かんがえる子	★重点計画の概要	
★目指す学校像（ビジョン）				○食への関心を高めるとともに、すすんで運動する習慣を身に付けさせることにより、健康で体力を高める児童の育成に努める。 ○望ましい人間関係の形成を図り、話し合いを通して考えを深めることができる児童の育成に努める。 ○地域密着型の学習活動を実施して思考力・判断力を育てるとともに郷土や国に対する誇りをもたせる。 ○児童が「わかる」「できる」といえる授業をめざしてユニバーサルデザイン化を進め、家庭学習と連動して基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ○いじめの発生を防止する。	
【めざす児童・生徒像】	① 心身共に強く健康な児童 ② 温かな心もち、力を合せて活動する児童 ③ 郷土を愛し、自ら考え表現する児童				
【めざす学校像】	① 学び活動する楽しさがある学校 ② 安全・安心で、豊かな情操を育む学校 ③ 保護者・地域と共に歩む学校				
【めざす教師像】	① 全ての児童に学ぶ喜びを味わわせる教師 ② 児童相互の友情や信頼を築く教師 ③ 学校組織を活性化させる教師				

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標
子供	小中9年間の学びの連続性の中で、学区域（豊田、川辺堀之内、南平）や日野市に愛着をもち、考える児童を育成する	・9年間の学びの姿を系統的に整備し、学区域や日野の自然、歴史、生活等についての思いや考えをもち語り合うことができるようにする	・小学校6年間の学びの系統表を作成する ・生活科や総合的な学習の時間で、児童が課題を見付け解決する活動を行う ・地域の方とのかかわりをもち、学習で得た学区域や日野のよさを地域の方にも発信していく授業を設定する	4 地域とのかかわりの中で、発見し課題追究する単元を学期に1回以上実施する教員が70%以上	4 学区域や日野市のよさを表現することができた児童が全体の70%以上	
				3 地域とのかかわりの中で、発見し課題追究する単元を学期に1回以上実施する教員が60%以上	3 学区域や日野市のよさを表現することができた児童が全体の60%以上	
				2 地域とのかかわりの中で、発見し課題追究する単元を学期に1回以上実施する教員が50%以上	2 学区域や日野市のよさを表現することができた児童が全体の50%以上	
				1 地域とのかかわりの中で、発見し課題追究する単元を学期に1回以上実施する教員が50%未満	1 学区域や日野市のよさを表現することができた児童が全体の50%未満	
教職員・学校	ユニバーサルデザイン（UD）化された授業の中で、児童が個人で研究したり集団で思考したりする授業を開発する	・授業をUD化するとともに、通級指導学級やリソースルームとの連携を図り、全ての児童が参加し理解できる授業を行う ・授業の中で話し合い活動を行い、コミュニケーション能力を高めるとともに、集団で考える態度を身に付けさせる	・全ての児童が授業に参加し理解できるよう、授業のUD化について教員間で共通理解を図り、授業を見合う機会をもつ ・授業の中で、個人で考える時間や集団で話し合う時間を設定する	4 全教員が学期3回以上指導案を作成し、他の教員の参観とコメントを得る	4 授業内容を理解できている児童が、90%以上	
				3 学期3回以上指導案を作成し、他の教員の参観とコメントを得る教員が80%以上	3 授業内容を理解できている児童が、85%以上90%未満	
				2 学期3回以上指導案を作成し、他の教員の参観とコメントを得る教員が60%以上	2 授業内容を理解できている児童が、80%以上85%未満	
				1 学期3回以上指導案を作成し、他の教員の参観とコメントを得る教員が60%未満	1 授業内容を理解できている児童が、80%未満	
学校・家庭・地域・社会	家庭での学習習慣を定着させる	・家庭との連携を図り、自主的に家庭学習に取り組む態度を身に付けさせる ・児童に家庭学習の成果を感じ取らせ、自学自習の良さを味わわせる	・家庭学習及び宿題を1年から6年までの各学年の系統性を考慮して出題する ・漢字や計算など反復的な学習と授業の進捗状況に合わせた宿題の出題方法を工夫し、分かりやすく提示して行う ・保護者に対して、家庭学習の仕方について伝えて協力を仰ぎ、家庭とともに自主的に家庭学習が行えるように工夫する	4 家庭との連携を図り、工夫して家庭学習を積極的に推進する教員が90%以上	4 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が90%以上	
				3 家庭との連携を図り、工夫して家庭学習を積極的に推進する教員が80%以上	3 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が80%以上	
				2 家庭との連携を図り、工夫して家庭学習を積極的に推進する教員が70%以上	2 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%以上	
				1 家庭との連携を図り、工夫して家庭学習を積極的に推進する教員が70%未満	1 学年×10分の家庭学習に毎日取り組んだ児童が70%未満	
生活指導	いじめをゼロにする	・早期発見、早期対応をする ・いじめの起きにくい学級を実現する	・児童の自己肯定感を高め、互いに認め合う思いやりの心を育てるために、全教育活動を通して『生命尊重』『思いやり』について指導する ・2か月に1回いじめ実態調査を行い、担任が状況を把握する ・毎週的生活指導夕会において、児童の状況を報告して情報を共有し、全職員で対応する	4 月2回以上、『生命尊重』『思いやり』に関する指導を行う	4 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で0件	
				3 月1回、『生命尊重』『思いやり』に関する指導を行う	3 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で1件	
				2 学期に1回、『生命尊重』『思いやり』に関する指導を行う	2 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で2件	
				1 1回も『生命尊重』『思いやり』に関する指導をしていない	1 学期末に継続しているいじめの件数が学校全体で3件以上	
特別活動	児童に主体的に学校生活上の課題を解決させることを通じて、人と共に考える力を身に付けさせる	・話し合い活動の6年間の系統性を明確にし、児童会活動や学級活動の中において諸問題を自主的、実践的に解決する力を高める。	・話し合い活動の系統性や、教員の心得などを職員室に掲示し、日頃の指導に生かせるようにする ・特別活動部から月に1回、話し合い活動に関する情報提供を行う ・夏休みに研修会を行い、それを活用して各学級で学級会を定期的に行う	4 情報を生かして話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が80%以上	4 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が80%以上	
				3 情報を生かして話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が70%以上	3 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が70%以上	
				2 情報を生かして話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が60%以上	2 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%以上	
				1 情報を生かして話し合い活動（学級会）を月に1回以上実施する教員が60%未満	1 話し合いで、課題を解決するための意見を言うことができたと答える児童が60%未満	
体育	体力の向上を図る	・走力を基盤として体力向上を図り、東京都の平均値を超える ・体育の授業を通じて運動好きな児童を育て、運動の日常化を図る ・体育的行事を通じて運動の良さや楽しさを味わわせる	・ランニングタイムにおいて、初めに1周当たりのタイムを計測し、1週のタイム×学年に応じた周数で目標タイムを設定する ・目標タイムを縮めた人数をクラス対抗で競わせる ・体育カードを作成し児童の自己理解や目標づくりに活用する ・系統図を作成し授業の中で取り入れる ・体育推進委員会の動きで、運動量があり児童が主体的に学習する体育の授業を日常化する	4 学期ごとにランニングタイムの目標をもたせ、フォームや走り方などの指導を行う教員が80%以上	4 11月における50m走の記録が都の平均値以上の学年数が5以上	
				3 学期ごとにランニングタイムの目標をもたせ、フォームや走り方などの指導を行う教員が70%以上	3 11月における50m走の記録が都の平均値以上の学年数が4	
				2 学期ごとにランニングタイムの目標をもたせ、フォームや走り方などの指導を行う教員が60%以上	2 11月における50m走の記録が都の平均値以上の学年数が3	
				1 学期ごとにランニングタイムの目標をもたせ、フォームや走り方などの指導を行う教員が60%未満	1 11月における50m走の記録が都の平均値以上の学年数が2以下	
食育	食への感謝の心をもち、食に関する知識及び判断力と望ましい食習慣を身に付けた児童を育成する	・心から「いただきます」「ごちそうさま」が言えるようにする ・給食の残菜量を減じる	・年間計画に沿って食に関する授業や給食指導を行い、食への関心と理解を高める ・食育推進委員会でビデオレターを作成し、児童に生産者や調理員の思いを伝える	4 食に関する授業を年間計画に基づいて行い、給食時に食への関心を高める指導を毎日行う教員が90%以上	4 常時完食する児童がクラスで90%以上	
				3 食に関する授業を年間計画に基づいて行い、給食時に食への関心を高める指導を毎日行う教員が80%以上	3 常時完食する児童がクラスで80%以上	
				2 食に関する授業を年間計画に基づいて行い、給食時に食への関心を高める指導を毎日行う教員が70%以上	2 常時完食する児童がクラスで70%以上	
				1 食に関する授業を年間計画に基づいて行い、給食時に食への関心を高める指導を毎日行う教員が70%未満	1 常時完食する児童がクラスで70%未満	
幼保中との連携	学びの連続性の中で、希望をもって学校生活を送る児童を育成する	・スタートカリキュラムを活用して、小学校生活への円滑で効果的な接続を行う ・児童が幼保及び中学校と定期的に交流し、親近感を持たせる ・中学校生活に対する見通しがもてるようにする	・小学校入門期のスタートカリキュラムを特別支援教育の視点を入れて改善し、活用する ・1年生の生活科や3・4・5年生の総合的な学習の時間において幼保小の交流が互恵性のある活動となるように単元計画を整備する ・教員が中学校の指導の実態を理解する ・6年生に中学校体験をさせたり、中学校の生徒会の話の聞いたりする機会を作るとともに、中学校教員による出前授業を行う	4 学期に10回以上、幼保中との交流活動を行う	4 80%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				3 学期に8回以上、幼保中との交流活動を行う	3 70%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				2 学期に6回以上、幼保中との交流活動を行う	2 60%以上の1年生の児童が「学校は楽しい」と答え、6年生児童が中学校生活に期待していることがあると答える	
				1 幼保中との交流活動を行うのが、学期に6回未満	1 「学校は楽しい」と答える1年生児童及び、中学校生活に期待していることがあると答える6年生児童が60%未満	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。